清流ニューズ

発行所
八王子市子安町1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164

平成二十五年度総祈願

日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
教化必成教務員増加・報恩御有志目標達成完納成就
羽村別院改修成就之御願
佛立菩薩増加・助行運動推進
役中後継者養成・法灯相続促進

七月の御総講日

一日　十時　御修行日
七日　九時半　バースデー総講
　　日序上人報恩祈念
十三日　九時半　高祖御命日
廿五日　十時　門祖御命日
　　於清流寺
十二日　十時　高祖御逮夜
廿四日　十時　門祖御逮夜
三十日　十時　歓尊御命日
　　於羽村別院

特別行事

廿一日　十時三十分始
佛立開導日扇聖人御正当会式
晴天祈願（夏期参詣に併修）
七日～廿日
第一座　六時～八時
第二座　九時半～十時半

会議

一日　御総講後　役中会議
廿五日　御総講後　教区長会議
午後二時　事務局参事会

7月21日(日)
10時30分始
佛立開導日扇聖人御正当会式
熊本・山鹿市　鹿本寺御高職
松田日晃上人ご唱導

来る二十一日(日)午前十時三十分より、本年度の夏の御会式、佛立開導日扇聖人御正当会式（開導会）が奉修されます。

ふつうは開導聖人、あるいは日扇聖人と申し上げておりますが正しくは、**本門佛立宗開発教導日扇聖人**と尊称申し上げるのですが、ひとまず、開導聖人と書かせていただくことにします。

開導聖人は、お経本である妙講一座に「蓮隆両祖の流れをくみ」と教えられておりますように、お祖師様、日蓮聖人、門祖日隆聖人の教えを正しく受け継がれて、我等末法の一切の人々を救う御法様である、「法華経本門八品所顕上行所伝本因下種之御題目様」をお示し下されたのです。

このおかげで私共は、日夜いろいろと結構な御利益を頂戴しているのです。

このご恩にお報いさせていただくための大恩報謝の志をもってお勤めさせていただくのが、夏の御会式である、開導会、御正当会であります。

本年の御正当会式をお勤め下さる御導師は、九州熊本県山鹿市・鹿本寺御高職である松田日晃上人です。

鹿本寺のご信者さんも、はるばる、ご住職の随伴としてお参詣いただくことになっております。

当山としても、遠路お参詣下さる鹿本寺のご信者様を、大勢の参詣者でお迎え致しましょう。

各教区、各部ともに将引のご奉公に気張り、一人でも多く参詣できるよう将引の徹底をはかりましょう。

夏期参詣
七月七日(日)～二十一日(日)
布教区交流参詣は
荒川区・本華寺さんと

本年度の夏期参詣は、来る七月七日(日)より御会式当日の廿一日迄、十五日間実施されます。

この期間中に、御正当会当日晴天、無事奉修ご奉公成就の晴天祈願も言上されます。

日頃は、なかなかお寺参詣がままならない人も夏期参詣にはしっかりと気張りたいものです。

七月十三日 盂蘭盆会
功徳会物故者会員回向

七月十三日はお盆の入りです。当山は、この日、例年通り、高祖御命日総講に、「功徳会物故者会員」の御回向も併修されます。

七月十四日
宗門総回向奉修
本山・宥清寺にて

来る十四日(日)本山宥清寺に於て、開導会が奉修されると同時に、宗門総回向も併修されます。

過日、皆さんから申し込んでいただいたご回向が、御講有上人をはじめとして、当日ご出座の御導師、御講師方によって懇ろに弔っていただきます。

朝参詣強調週間
七月二日～六日
第二連合

七月二日～六日迄の五日間は朝参詣強調週間です。

第二連合の各教区はもとより他連合も、月初めの祈願参詣に気張りましょう。

七月二日（火）日野教区
三日（水）立川教区
四日（木）大和教区
五日（金）国立教区
六日（土）京王教区

日序上人御十七回忌報恩ご奉公
御有志奉納者氏名（その四十五）
（教区順。敬称略。順不同）
二十五年六月十七日現在
合計　七一四名、一，四三八口

本月の御妙判

順逆ともに成佛

法華経に入りぬれば唯一人の身、一人の心なり。譬へば衆河の大海に入りて同一鹹味なるが如く、衆鳥の須弥山に近づきて一色なるが如し。提婆が三逆も羅睺羅が二百五十戒も等しく仏になりぬ

（阿佛房書縮1953）

凡ての河の水は大海に入って皆同じ鹹味を帯び、以前の区別は全くなくなってしまう。また須弥山はいつも金色の光りを放っているから種々の鳥が須弥山に近づくと皆其の翼の色が同じ金色に見えるのであります。法華経の信心もその通りでいろいろな性格、気質の者でも、善人でも悪人でも智者でも、愚者でも、しっかりと「受持口唱」さえ出来れば、悉く仏の境界に向って進むべき果報が頂けるのであります。

法華経に於ては、先づ舎利弗が授記せられ、続いて多くの人が授記せられたが、その中に羅睺羅の授記も授学無学人記品で説かれてあります釈尊の太子であったときの子である羅睺羅は、「密行第一」と云われ比丘の二百五十戒をしっかりまもっているという順縁の弟子であったわけですが、一方提婆達多は釈尊のイトコですが佛の名声をネタミ、三逆罪を犯す徒でした。

五逆罪は①父ヲ殺ス②母ヲ殺ス③阿羅漢ヲ殺ス④佛身ヨリ血ヲ出ス⑤和合僧ヲ破ル。の五つですが提婆達多はこのうち、①③④の三逆罪を犯したのです。つまり、逆縁の徒ですが釈尊の高徳によって順縁のラゴラ。逆縁の提婆達多、ともに救われるということになったのであります。

お祖師様は

譬ば人の地に依りて倒れたる者のかえって地ををさへて起が如し地獄には堕つれども、疾く浮で佛になる也。当世の人、何となくとも法華経に背く失に依りて地獄に墜ちん事疑ひなき故に、とてもかくても法華経を強ひて説き聞すべし、信ぜん人は佛になるべし。謗ぜん者は毒鼓の縁となって佛になるべき也

（法華初心成佛抄1684）

末代の凡夫は〝堕獄治定〟と申して無始已来の謗法罪障をもっていますから、未来は必ず地獄に堕ちる運命をもっているといわれています。だから、無理にでもお題目を唱えさせて、順逆ともに成佛出来るように結縁しなければならないのであります。

さかさまに結ぶえにしものりの花
そしるにさへや香にうつるらん

と御教歌下されてあります。仲々難しくても、ねばり強く教化弘通の御奉公をつゞける事が肝心です。